



一般財団法人光産業技術振興協会
専務理事 小谷 泰久

新年、明けましておめでとうございます。

さて、アベノミクスの第三の矢として策定された成長戦略（「日本再興戦略」）の中で、日本経済の未来を切り開く重要な鍵は「第4次産業革命」と呼ばれるIoT、人工知能、ビッグデータなどの革新的技術の創出とその活用により新しいビジネスモデルと商品・サービスを生み出すことだとされています。

光技術は、IoT、ロボット技術の進展に不可欠なイメージセンサなどの各種センサや光情報通信システム、自動運転の基盤技術である高速カメラや次世代ディスプレイ、医療・健康技術に資するバイオセンサや高速画像処理システムなど重要なキーテクノロジーを多く含んでおり、その進展により日本社会の発展に寄与することが求められています。

光協会では、これらの技術に関する研究開発戦略、事業化戦略の策定を事業の第一プライオリティとし、6年前から2030年代をターゲットとして、情報処理フォトニクス、安全安心フォトニクス、光ユーザインタフェース、光情報通信、光加工・計測のロードマップを作成してきました。また、去年は自動運転などに活用されるカメラ技術、測距技術、車載ネットワーク、交通ネットワークなど未来の自動車に関連する光技術を対象とした「自動車フォトニクス」のロードマップの策定を行いました。本年2月9日にリーガロイヤルホテルで開催する光産業技術シンポジウムではこのロードマップについて発表する予定です。

また、情報処理フォトニクス・ロードマップに基づき立案され、技術研究組合光電子融合基盤技術研究所で国家プロジェクトとして推進されている「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システムプロジェクト」も順調に研究開発が進み、実用化に向けて着実に歩みを進めています。さらに、光協会としては新たなプロジェクトのフェージビリティスタディ（FS）として、「データセンタ向け低消費電力・超多ポート高速光スイッチシステム」の調査研究も実施しました。このFSは本年も継続して実施される予定です。

一方、標準化に関しては、昨年11月末にレーザーの国際標準化を行っているISO/TC 172/SC 9会合を岡山県倉敷市に於いて開催しました。光協会は今後とも我が国の国際標準化活動を効果的に支援したいと思えます。

本年も引き続き将来の光産業の発展のために、プロジェクト立案に向けてのFS、技術戦略策定、光産業・光技術動向等各種調査、標準化事業や基準認証研究開発、シンポジウムや研究会などの普及啓発事業を実施して参ります。より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご発展、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。